

Intuos Pro

活用事例

VIDEO EDITING

CASE STUDY 2 モバーシャル株式会社



動画のポストプロダクションはディテールへのこだわりが命 動画編集ソフトをストレスフリーに扱えるIntuos Proは強い味方です

明治安田生命Jリーグ公式スポンサー動画や人気化粧品ブランド「ヒロインメイク」のプロモーション動画など、有名企業のハイクオリティな映像制作を手がけるモバーシャル株式会社。そのクリエイティブチームでは、ポストプロダクションの作業にIntuos Proを活用。「Intuos Proは動画制作はもちろん、クライアントにイメージビジュアルを提出する際の静止画の編集にも、なくてはならないツール。どの作業もディテールのブラッシュアップにIntuos Proを使うことで、クオリティにもスピードにも圧倒的な差が出ます。」(モバーシャル クリエイティブディレクター・神保光祐さん)



モバーシャル株式会社
クリエイティブディレクター 神保光祐さん
ディレクター／After Effects artist 沼田ヒデキさん



マスク処理で質感を高め、映像を合成

動画編集作業で欠かせないのは、エフェクトをかけたり映像合成を行う際のマスク処理。いわゆるパス抜きと呼ばれる作業です。「動画編集ソフトにもマスク処理を自動で行う機能はついていますが、クオリティアップの最終手段はやはりこだわりの手作業です。パス作成の精度の高さは、合成後の映像の品質に直接反映しますので、細部をスピーディにポイントしていけるIntuos Proは必須。レンズについた傷やごみを除去するいわゆる“バレ消し”など細かく神経を使う作業こそ、真価を発揮しますね。」(ディレクター／After Effects artist・沼田ヒデキさん)

CASE

1

CASE

2

タイムライン編集をよりスピーディに

動画編集にAdobe After Effectsを使用している沼田さんは、タイムライン編集のすべてをIntuos Proで操作。「ペンタブレットを使う一番のメリットは、ポインタを直感的に操れることです。マウス作業だと、一度画面から目を離すとポインタを見失いやすく、ストレスが溜まりますが、ペンなら位置が把握しやすい。範囲指定やボタンのオン／オフ、ウィンドウの切り替えなどの作業も、ペンならどんな細かいところも、速く、確実にポイントできます。Intuos Proならタイムラインの拡縮もタッチホイールを使って自由自在に操れる。便利なので、僕はブラウジングやメールもすべてIntuos Proで操作しています。」(沼田さん)



静止画を合成してイメージコンテを作成

映像の撮影前には、撮影コンセプトやビジュアルイメージを可視化するイメージコンテを作成。イメージコンテは写真素材を合成して作られることが多く、そこでもIntuos Proが活躍します。「人物を使った撮影は、実際に背景写真と人物写真を合成したコンテがあると、イメージが伝えやすいですね。特に、コンペティションやクライアントワークの場合は、写真合成の仕上がりの美しさが印象を分けます。人物の髪の毛などの細かい部分をキレイに処理するのも、Intuos Proの高精細なペンは欠かせません。」(神保さん)

CASE

3